

多面的機能の維持・発揮活動 【農村環境部門】

すが う だ さ た お き か ん き ょ う ほ ぜ ん か い
清し有田佐田沖環境保全会(玉城町)

多様な主体が参加する里地里山保全活動

活動の状況 (認定農用地面積A=332.52ha)

当保全会は、平成24年に発足し、玉城町北部を協定区域として、11集落、6団体を構成員とする広域活動組織です。協定区域西側一帯には、沼田や老朽化した水路、ため池などの農業施設や樹林帯で構成される里地里山が広がっていますが、地域コミュニティのみの力ではその保全管理が年々難しくなってきたことから、里地里山の重要性を発信していく中で、その価値観を共有できる多様な主体の参画による保全活動の展開を目指すことになりました。このため、平成30年より現状把握のための各種調査や県の支援を受けた企業を対象とした現地説明会の開催等のリサーチを通じて、楽しみ、学びながら実施可能な里地里山保全・再生のための6項目の活動目標を設定し、順次実施していく体制づくりに取り組みました。

現在、①里山ガーデニングコンテスト(GC)、②里山ビオトープの整備、③里山ウォーキングの開催(フットパス整備)を先行させていますが、これらの活動は、里地里山の魅力や大切さを伝える重要なツール・メルクマールとして機能し、さらに地域内外からの多くの個人・団体・企業の協力・連携を得たことで、活動の一層の広がりや活性化にも繋がっています。

里山GC

令和元年より、保全活動のサポーターづくりを目的として実施。里山周辺に広がる段々畑を活用し、参加する地域内外の個人・団体・企業がコンテスト形式で花畑を造成(令和6年度は14団体が参加)。春のGC期間中は来場者による花畑人気投票、フォトコンテスト、地元農産物等を販売するプチマルシェを開催



参加者の播種作業



花畑の見学者



里山ビオトープ

平成30年から始まった生物調査を契機に、元谷津田であった一帯をビオトープとして位置づけ。生物の専門家や地元企業の支援を得た生物調査や保全管理活動、地元小学校の観察会や環境学習の場として活用。現在10種の絶滅危惧種、11種の準絶滅危惧を確認。



木道設置作業



生物調査



冬の草刈り



生き物観察会

里山ウォーキング

多様な生態系を有する里地里山一帯を植物、昆虫の専門家とともに巡る里山ウォーキングを毎年春と秋に開催。コースはフットパスルートとして整備する予定。



UDASATA
Instagram QRコード